

日本学術会議活動状況報告

会長及び副会長報告資料

# 日本学術会議活動状況報告

令和6年10月21日

前回（第191回）総会以降の活動状況報告

## 第1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月22日（月） ～24日（水）	日本学術会議第191回総会	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
4月23日（火）	記者会見	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
4月26日（金）	第1回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月8日（水）	第2回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月11日（土）	日本薬系学連合設立記念フォーラム「ともに語ろう 薬学の未来」	光石会長
5月13日（月）	第20回国際ケイ素化学シンポジウム開会式	日比谷副会長
5月16日（木） ～17日（金）	世界科学フォーラム 2024 第3回運営委員会（オン ライン）	日比谷副会長
5月17日（金）	第2回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月22日（水）	第3回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月23日（木）	第35回国際神経精神薬理学会世界大会開会式	日比谷副会長
5月27日（月）	第4回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月27日（月）	日本地球惑星科学連合 2024年大会（JpGU Meeting 2024）	光石会長 三枝副会長
5月31日（金）	第3回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
5月31日（金）	記者会見	光石会長

		三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
6月3日(月)	オマーン王立マネジメント・アカデミー会長との会談	光石会長 日比谷副会長
6月7日(金)	Gサイエンス学術会議2024 共同声明の総理手交	光石会長 日比谷副会長
6月7日(金)	第11回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光石会長 日比谷副会長
6月7日(金)	記者会見	光石会長 日比谷副会長
6月14日(金)	中部地区会議学術講演会「未病から Well-being を考える」	三枝副会長
6月17日(月)	第4回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
6月24日(月)	第21回国際生物物理会議開会式	三枝副会長
6月24日(月)	第5回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
6月26日(水)	日本原子力学会原子力発電部会「次期軽水炉の技術要件に関するシンポジウム～社会に信頼される次期軽水炉とそれを実現可能にするために必要な取組み～」来賓挨拶	光石会長
7月1日(月)	第13回計算知能に関する国際会議開会式	磯副会長
7月1日(月) ～2日(火)	サイエンス20(S20)2024	日比谷副会長
7月8日(月)	第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議開会式	日比谷副会長
7月8日(月)	日本学士院第114回授賞式	光石会長
7月11日(木)	第6回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
7月19日(金)	第5回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
7月22日(月)	第7回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長
7月29日(月)	第12回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光石会長 三枝副会長 磯副会長

		日比谷副会長
7月29日(月)	記者会見	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
8月15日(木)	令和6年度全国戦没者追悼式	光石会長
8月22日(木)	第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」－令和6年能登半島地震災害における課題と教訓－開会挨拶(オンライン)	三枝副会長
8月25日(日)	第27回国際昆虫学会議開会式	日比谷副会長
9月7日(土)	近畿地区会議学術講演会「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス/シビックテックの挑戦」	磯副会長
9月30日(月)	記者会見	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
10月1日(火)	MICEアンバサダーの集い	光石会長
10月4日(金)	日本学術会議主催学術フォーラム「未来の学術振興構想－実現に向けて－」	光石会長
10月5日(土) ～8日(火)	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」 第21回年次総会	光石会長 磯副会長 日比谷副会長
10月6日(日) ～7日(月)	英国王立協会副会長との会談 オランダ教育文化科学副大臣との会談 EU欧州委員会共同研究センター局長、同委員会研究イノベーション機構局長との会談 アブダビ首長国先端技術研究評議会事務局長との会談	光石会長 日比谷副会長
10月7日(月)	「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」 アカデミー・プレジデント会議	光石会長 磯副会長 日比谷副会長
10月7日(月)	日本学術会議国際アドバイザーリーボード会合	光石会長

		磯 副 会 長 日比谷副会長
10月9日（水）	INGSA（政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク）会長との会談	光 石 会 長
10月9日（水）	九州・沖縄地区会議学術講演会「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～」	日比谷副会長
10月11日（金）	第6回会員選考等ワーキング・グループ	日比谷副会長
10月15日（火）	日本学士院秋季懇談会	光 石 会 長 磯 副 会 長 日比谷副会長
10月16日（水）	第8回組織・制度ワーキング・グループ	日比谷副会長

## 第2 会長談話・会長メッセージ

次の会長談話及び会長メッセージを公表した。

- 1 日本学術会議会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第12回会合の開催について」

（令和6年7月30日公表）

- 2 日本学術会議会長談話「宮崎県日向灘を震源とする地震及び南海トラフ地震臨時情報について」

（令和6年8月9日公表）

- 3 日本学術会議会長メッセージ「日本学術会議第25期3年目（令和4年10月～令和5年9月）の活動状況に関する評価」における指摘事項に対する考え方について」

（令和6年8月28日公表）

## 第3 提言等の承認

○声明

日本学術会議

「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」に対する懸念について ～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」

（令和6年4月23日公表）

#### 第4 学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム「未来の学術振興構想－実現に向けて－」を令和6年10月4日（金）に日本学術会議講堂（オンライン併用）にて開催した。

#### 第5 国際会議の開催

- 1 共同主催国際会議「第20回国際ケイ素化学シンポジウム」を令和6年5月12日（日）～5月17日（金）に広島県にて開催した。
- 2 共同主催国際会議「第35回国際神経精神薬理学会世界大会」を令和6年5月23日（木）～5月26日（日）に東京都にて開催した。
- 3 共同主催国際会議「第21回国際生物物理会議」を令和6年6月24日（月）～6月28日（金）に京都府にて開催した。
- 4 共同主催国際会議「第13回計算知能に関する国際会議」を令和6年6月30日（日）～7月5日（金）に神奈川県にて開催した。
- 5 共同主催国際会議「第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議」を令和6年7月7日（日）～7月14日（日）に北海道にて開催した。
- 6 共同主催国際会議「第27回国際昆虫学会議」を令和6年8月25日（日）～8月30日（金）に京都府にて開催した。

#### 第6 日本学術会議地区会議

- 1 中部地区会議主催 学術講演会「未病から Well-being を考える」を令和6年6月14日（金）に富山県（オンライン併用）にて開催した。
- 2 近畿地区会議主催 学術講演会「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」を令和6年9月7日（土）に京都府（オンライン併用）にて開催した。
- 3 九州・沖縄地区会議主催 学術講演会「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～」を令和6年10月9日（水）に鹿児島県（オンライン併用）にて開催した。

#### 第7 会員の辞職及び任命

##### 1 会員の辞職

寺崎 浩子会員が、令和6年7月31日付で定年退職した。

中川 聡子会員が、令和6年7月31日付で定年退職した。

## 第8 慶弔等

### 1 慶事

・令和6年春の叙勲受章者 令和6年4月29日発令

#### 【瑞宝大綬章】

井上 明久（元連携会員（第20-23期））

#### 【瑞宝重光章】

位田 隆一（元会員（第20期）、元連携会員（第21-22期））

橋本 信夫（元連携会員（第20-23期））

#### 【瑞宝中綬章】

飯野 正光（元連携会員（第20-24期））

石井 志保子（元会員（第21-22期）、元連携会員（第20期、第23-24期））

磯部 力（元連携会員（第20-21期））

一井 眞比古（元連携会員（第20-23期））

伊藤 隆敏（元連携会員（第20期））

江藤 文夫（元連携会員（第20-21期））

大谷 栄治（連携会員（第20-26期））

大津 元一（元連携会員（第20-22期））

大政 謙次（元会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期、第24-25期））

大町 達夫（元連携会員（第21-22期））

岡田 益男（元会員（第22期）、元連携会員（第20-21期、第23-24期））

小川 直宏（元連携会員（第20-25期））

樺山 紘一（元会員（第20期））

小澤 紀美子（元連携会員（第20-23期））

小長井 誠（元会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期、第24-25期））

仙石 正和（元連携会員（第20-25期））

大坊 郁夫（元連携会員（第20-21期））

中村 栄一（元会員（第23-24期）、連携会員（第20-22期、第25-26期））

西村 周三（元連携会員（第22-23期））

御厨 貴（元連携会員（第20期））

南 <sup>ひろこ</sup>裕子（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-25期））

三間 圀興（元連携会員（第20-25期））

- ・令和6年春の褒章受章者 令和6年4月29日発令

【紫綬褒章】

- 石川 邦夫（連携会員（第26-27期））
- 石原 一彦（連携会員（第25-26期））
- 今堀 博（元連携会員（第20期））
- 沖 大幹（会員（第25-26期）、元連携会員（第21-24期））
- 納富 信留（連携会員（第23-26期））
- 馬場 俊彦（連携会員（第22-27期））

2 弔事

- ・駒宮 幸男（こまみや さちお） 令和6年6月5日 享年71歳  
現連携会員（第21-22期、23-24期、25-26期）  
東京大学名誉教授
- ・中村 保（なかむら たもつ） 令和6年2月15日 享年61歳  
現連携会員（第26-27期）  
神戸大学大学院経済学研究科教授／理事・副学長
- ・富田 眞治（とみた しんじ） 令和6年9月21日 享年78歳  
元連携会員（第20-21期）  
京都情報大学院大学学長、京都大学名誉教授
- ・小野寺 秀俊（おのでら ひでとし） 令和6年10月7日 享年68歳  
元連携会員（第22-23期、24-25期）  
京都大学名誉教授
- ・遠藤 玉夫（えんどう たまお） 令和6年10月9日 享年70歳  
元会員（第24-25期）、現連携会員（第22-23期、26-27期）  
東京都健康長寿医療センター研究所シニアフェロー

## 第9 その他

### 事務局人事異動

企画課長

旧：上村 秀紀

(令和6年7月5日)

新：水本 圭祐

(令和6年7月5日)

参事官（審議第一担当）

旧：佐々木 亨

(令和6年7月31日)

新：新田 浩史

(令和6年8月1日)



# 2024年4月から2024年10月の 活動報告

第192回総会  
第26期日本学術会議会長  
光石衛

- 日本学術会議の在り方に関する検討状況について
- 日本学術会議第26期アクションプランについて
- 主な国際活動
- 会長談話・会長メッセージ

令和5年

- 8月 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会開催
- 10月 第26期開始  
日本学術会議第189回総会
- 12月9日 日本学術会議第190回総会  
声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方ー自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けてー」
- 12月21日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」
- 12月22日 「日本学術会議の法人化に向けて」(内閣府特命担当大臣決定)  
会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」及び「日本学術会議の法人化に向けて」について

令和6年

4月～ 内閣府「組織・制度ワーキング・グループ」及び「会員選考等ワーキング・グループ」開催

4月22・23日 日本学術会議第191回総会

声明「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて(令和5年12月22日)」に対する懸念について～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」

6月7日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第11回)

－「より良い役割発揮のための制度的条件」(日本学術会議幹事会)

7月29日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第12回)

－「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」(日本学術会議会長)

## 開催趣旨

日本学術会議が、学術の進歩に寄与するとともに、国民から理解され信頼される存在であり続けるという観点から、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」(令和5年6月16 日閣議決定)を踏まえ、日本学術会議に求められる機能及びそれにふさわしい組織形態の在り方について検討するために、内閣府特命担当大臣決定により開催。

## 構成員

- 相原道子 横浜市立大学名誉教授(皮膚科学)、公立大学協会会長
- 五十嵐仁一 ENEOS 総研株式会社顧問、産業競争力懇談会(COCN)専務理事・実行委員長、元日本学術会議特任連携会員
- 上山隆大 元政策研究大学院大学副学長(科学技術政策)、内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員
- 大栗博司 カリフォルニア工科大学フレッド・カブリ冠教授(理論物理学、数学)、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構教授、アスペン物理学センター理事長、アメリカ芸術科学アカデミー会員
- 小幡純子 日本大学大学院法務研究科教授(行政法)、元日本学術会議会員、元日本学術会議連携会員
- ◎岸輝雄 東京大学名誉教授(材料工学)、元外務大臣科学技術顧問、元日本学術会議副会長
- 久間和生 農業・食品産業技術総合研究機構理事長、国立研究開発法人協議会会長
- 佐々木泰子 お茶の水女子大学長(社会言語学)
- 瀧澤美奈子 科学ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会議副会長、日本学術会議外部評価委員
- 永井良三 自治医科大学長(循環器学)、元日本学術会議会員、日本学術会議連携会員
- 永田恭介 筑波大学長(分子生物学)、国立大学協会会長
- 山西健一郎 元日本経済団体連合会副会長・イノベーション委員長(元三菱電機会長)

◎: 座長 ○: 座長代理

※日本学術会議会長に毎回参加を要請することとする。

## 開催経緯

令和5年8月以降これまでに10回開催

第1回(R5.8.29)～第3回(R5.9.25)  
⇒梶田隆章会長ほか出席

第4回(R5.11.2)～第10回(R5.12.21)  
⇒光石衛会長ほか出席

令和5年

12月21日 中間報告

12月22日 内閣府特命担当大臣決定

令和6年

第11回(R6.6.7)、第12回(R6.7.29)

## 開催趣旨

日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告(令和5年12月21日)」及び「日本学術会議の法人化に向けて(令和5年12月22日内閣府特命担当大臣決定)」を踏まえ、日本学術会議の在り方に関する具体的な検討を深めるため、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の下、①組織・制度ワーキング・グループ及び②会員選考等ワーキング・グループを開催する。

## 組織・制度WG 構成員

◎:主査

- ◎ 五十嵐仁一 産業競争力懇談会(COCN)専務理事・実行委員長、元ENEOS総研株式会社顧問、文部科学省国立研究開発法人審議会委員、元日本学術会議特任連携会員
- 小幡純子 日本大学大学院法務研究科教授(行政法)、元日本学術会議会員、元日本学術会議連携会員
- 佐々木一成 九州大学副学長(材料工学、エネルギー学)、日本学術会議連携会員
- 瀧澤美奈子 科学ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会議副会長、日本学術会議外部評価委員
- 永里善彦 元日本経済団体連合会産業技術委員会産学官連携推進部会長(創造科学研究所代表/元旭リサーチセンター社長)
- 原田久 立教大学法学部長(行政学)、独立行政法人評価制度委員会委員長代理、日本学術会議連携会員
- 藤川裕紀子 藤川裕紀子公認会計士事務所所長、厚生労働省国立研究開発法人審議会委員、国土交通省国立研究開発法人審議会委員、独立行政法人日本芸術文化振興会監事
- 宝野和博 国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長

## 会員選考等WG 構成員

◎:主査

- ◎ 相原道子 横浜市立大学名誉教授(皮膚科学)、公立大学協会会長  
大栗博司 カリフォルニア工科大学フレッド・カブリ冠教授(理論物理学、数学)
- 東京大学特別教授、アспен物理学センター理事長、アメリカ芸術科学アカデミー会員
- 大越慎一 東京大学大学院理学系研究科長・理学部長(物理化学・物性化学)、日本学術会議連携会員
- 小幡純子 日本大学大学院法務研究科教授(行政法)、元日本学術会議会員、元日本学術会議連携会員
- 河岡義裕 国立国際医療研究センター国際ウイルス感染症研究センター長、(ウイルス学)、東京大学国際高等研究所新世代感染症センター機構長、東京大学医科学研究所特任教授、元日本学術会議会員
- 久間和生 農業・食品産業技術総合研究機構理事長、国立研究開発法人協議会会長
- 徳賀芳弘 京都先端科学大学理事・副学長・経済経営学部学部長・研究科長・教授(財務会計)、元日本学術会議会員、日本学術会議連携会員
- 永里善彦 元日本経済団体連合会産業技術委員会産学官連携推進部会長(創造科学研究所代表/元旭リサーチセンター社長)

※日本学術会議に毎回参加を要請

## 第11回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(R6.6.7)

日本学術会議提出資料 「より良い役割発揮のための制度的条件」(日本学術会議幹事会)  
(ポイント)

### ・ 5要件の確保の重要性

- ①学術的に国を代表する機関としての地位
- ②そのための公的資格の付与
- ③国家財政支出による安定した財政基盤
- ④活動面での政府からの独立
- ⑤会員選考における自主性・独立性

### ・ 主な懸念点

要件② 公的資格の付与: 勧告機能の喪失

要件③ 国家財政支出による安定した財政基盤: 財源の多様化⇒公共性の観点から、国庫負担の原則

要件④ 活動面での政府からの独立: 中期計画の作成、運営助言委員会、監事、日本学術会議評価委員会  
(仮称)の設置は不要⇒活動の評価は科学者のピアレビュー

要件④(その2) 内部規則制定権: 内部規則で制定している事項を法定⇒政府からの独立性の担保

要件⑤ 会員選考における自主性・独立性: 選考助言委員会(仮称)⇒コ・オプレーションの妨げ

## 第12回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(R6.7.29)

日本学術会議提出資料「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」(日本学術会議会長)  
(ポイント)

### ・ 主な懸念点

1. 大臣任命の監事の設置を法定すること
2. 大臣任命の評価委員会の設置を法定すること
3. 『中期目標・中期計画』を法定すること(独立行政法人のようなものは認めがたい)
4. 次期以降の会員の選考に特別な方法を導入すること  
(コ・オペレーションの考え方の逸脱になる)
5. 選考助言委員会の設置を法定すること  
(すでにさまざまな意見を選考方針に反映した上で選考しているので不要)

- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項
- 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」(企画WG)を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
5. 学術を核とした地方活性化の促進
6. 情報発信機能の強化
7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(令和5年12月9日日本学術会議第190回総会資料より)

## 1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

(具体的な取組)

✓課題解決型の助言機能強化

⇒速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

✓査読プロセスの改革による迅速化・見える化

✓システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開

## 速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

- 科学技術・イノベーション基本計画** 科学者委員会 学術体制分科会  
➢ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言(仮題) 2024年10~11月予定
- 食品制度** 食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※  
➢ 国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案(仮題) 2024年10~11月頃予定
- 生成AI** 情報学委員会  
➢ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて(仮題) 2024年11月頃予定
- 量子技術** 情報学委員会  
➢ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題) 2024年11月頃予定
- カーボンニュートラル** 循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会  
➢ 「2050年カーボンニュートラル」のに対応するため、循環経済(サーキュラーエコノミー)と自然再興(ネイチャーポジティブ)との関係性や必要な施策等の諸課題を明らかにする。(意思の表出の名称等は未定) 2025年夏頃予定
- 研究力強化** 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会  
➢ 日本の研究力の国際的状況、学術政策の効果の因果分析、今後の方策などを検討予定(意思の表出の名称等は未定)
- その他の取組
- 防災・減災** 防災減災学術連携委員会  
➢ 第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を防災学術連携体と開催(8/22)

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

## 2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

(具体的な取組)

✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討

⇒ 学術フォーラムを開催(2024年10月4日)

✓研究力強化に向けた検討の推進

⇒ 「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」を設置(2024年8月30日)

✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討

**日本学術会議主催学術フォーラム**  
**未来の学術振興構想**  
 — 実現に向けて —

25期に提出した提議「未来の学術振興構想(2023年策)」について、提議の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような取組が行われるべきであるか、また、本提議をより豊かにしていくためにどのような取組が必要であるかなどについて、日本学術会議各部門の専門家及び外部関係者による議論を行います。

令和6年 **10月4日(金) 13:00~18:00**

【開催場所】日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)  
 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34  
 東京メトロ千代田線「六本木駅」下車、15番出口より徒歩1分

**参加費 無料** **事前参加 申込制**  
 どなたでもご参加いただけます。

**申込方法**  
 ▶事前申し込みは下記 URL または QR コードから  
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>  
 申込メド: 9月27日(金)  
 日本学術会議議室での参加は定員になり次第締め切り、超過の場合はオンライン参加

**プログラム** 司会進行: 山本 眞子 (日本学術会議第二部委員、日本学術振興会理事兼学術センター長)

13:00 ~ 13:05	開会挨拶	光石 寛 (日本学術会議会長/第三部委員、独立行政法人大学改革推進本部・学術振興局長、東京大学名誉教授)
13:05 ~ 13:15	未来の学術振興構想(2023)について【提議規定説明】	光石 寛 (内閣)
13:15 ~ 13:30	【未来の学術振興構想(2023)】提議規定総論	山崎 典子 (日本学術会議委員、独立行政法人大学改革推進本部学術振興局長)
13:30 ~ 13:45	【人文・社会科学領域分科会】 ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現	鈴木 基史 (日本学術会議一部委員、京都大学大学院研究科教授)
13:45 ~ 14:05	【生命科学領域分科会】 生命科学の新たな展開と創成	石塚 真由美 (日本学術会議委員、北海道大学大学院研究科教授)
14:05 ~ 14:35	【分科会別】 自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成	田辺 英一 (日本学術会議委員、東京大学大学院研究科教授)
14:35 ~ 15:05	分科会合で近く学術の未来	岸本 喜久雄 (日本学術会議委員、東京工業大学名誉教授)
休息		
日本の学術の現在と未来の学術振興構想		
15:15 ~ 15:40	未来の学術振興構想 一研究力の拠点から	山口 周 (東京大学名誉教授)
15:40 ~ 16:05	日本の学術に求められるこれからの課題 一包摂性、多様性、文化一	渡辺 美代子 (日本学術会議委員、日本学術振興会 総合戦略推進センターコーディネーター)
休息		
学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた取組		
16:15 ~ 16:40	学術と社会のためにより良い未来に向けて—学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた取組—	中村 謙治 (国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事、元株式会社日立製作所執行役員)
16:40 ~ 17:05	未来の学術振興構想」を政策の観点から考える	栗山 豊 (東京大学大学院総合政策研究センター特任教授)
17:05 ~ 17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹 (学術振興委員会 学術振興部 部長 兼 学術振興センター 理事)
17:30 ~ 17:50	まとめ・閉会挨拶	山田 一樹 (日本学術会議第三部委員、科学振興委員会学術研究振興分科会委員、東京大学工学部研究科マテリアル工学専攻教授)

主催: 日本学術会議 企画: 科学振興会学術研究振興分科会  
 お問い合わせ先: 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL: 03-3403-6295

### 「未来の学術振興構想」

- 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」を策定(2023年9月25日)
  - 今後20~30年頃まで先を見据えた
  - 学術振興の複数の「グランドビジョン」と
  - その実現の観点から必要となる「学術の中長期研究戦略」から構成
- 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を踏まえた科学的助言機能の強化
  - 中長期的視点、俯瞰的視野、分野横断的な検討を重視
- 科学者コミュニティからの「学術の中長期研究戦略」の提案を公募
  - 科学者コミュニティから自由な発想に基づくボトムアップを重視し、
  - 研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者から広く募集
  - 複数の研究コミュニティが連携した複合的な提案、
  - 予算の下限を設けず人文・社会科学分野が中核的に関わる提案について積極的に掘り起こし



## 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

(具体的な取組)

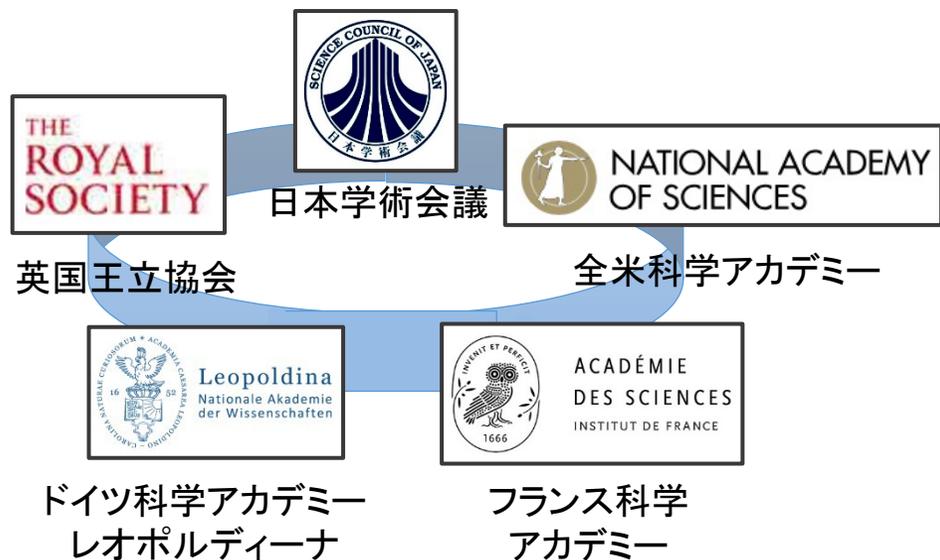
✓国際アドバイザーボードの開催

⇒初会合を開催(10/7)

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成

## 国際アドバイザリーボード



- 主要4ヶ国(英・独・仏・米)のナショナルアカデミーと、連携の強化及び日本学術会議の国際活動への助言等を目的として開催
- 初回会合では、連携強化の方策及び日学のアクションプラン等について議論

### <開催概要>

日時 : 2024年10月7日(月) 15:00-16:30  
場所 : 京都国際会館  
参加者 : 光石会長、日比谷副会長、磯副会長  
英 副会長、仏 前会長  
※独及び米国は欠席



会議風景  
(京都国際会館にて撮影)

#### 4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

(具体的な取組)

✓産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進

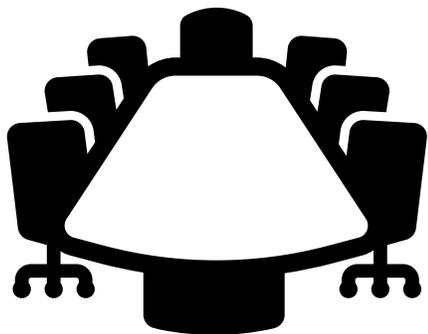
⇒産業界に所属する会員と企画WGの意見交換を実施

⇒COCNとの意見交換を実施予定

✓国民とのコミュニケーションの促進の具体化

⇒こども霞が関見学デーの実施(初の試み)

## 産業界とのコミュニケーション推進



- 産業界に所属する会員と企画WGで意見交換を実施
  - COCN(産業競争力懇談会)と日本学術会議会長・副会長等との意見交換を実施
    - 産業界の視点から学術会議へ期待することなどをテーマ
- ⇒ 産業界等とのコミュニケーションにより得られた成果を日本学術会議の活動へ反映

## こども霞が関見学デーの実施



にほん がくじゅつ かいぎ  
**日本学術会議**  
かすみ せき けんがく  
**こども霞が関見学デー**

11:00-16:00  
参加費無料

令和6年 8月7日(水) 8日(木)

会場 日本学術会議庁舎  
東京都港区六本木7-22-34  
※東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口  
(青山公園方面)から徒歩1分  
<https://www.scj.go.jp/kodomo/index.html>

科学のせかいをのぞいてみよう!

**プログラム**

① せんせいといっしょに自由研究〜カガクからのぞく家族と宇宙〜  
日本学術会議の先生と一緒に動物や宇宙、法律の不思議についてお話をしよう!

【予定プログラム】(※各回定員30名)  
◆8月7日(水) 13:30~14:30  
いろいろな生き物のいろいろな子育て・家族と法律〜紙状を書いてみよう〜

◆8月8日(木) 13:30~14:30  
宇宙を探検してみよう・宇宙法の話〜宇宙環境の保護と法律

事前申込制 申し込みはこちらから→

② こども学術会議〜自分のアイデアを発表してみよう〜  
日本学術会議の講堂で、自分のアイデアをスクリーンに映して発表してみよう!

予約不要

③ 意外と難しい! 一番の「つり名人」はだれだ?!  
「日」「本」「学」「術」「会」「議」と書かれたお魚をみんなは釣れるかな?

予約不要

- こども(小中学生・幼児等)に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定(初の試み)
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 生き物や宇宙をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画

## 5. 学術を核とした地方活性化の促進

(具体的な取組)

- ✓ 地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

## 6. 情報発信機能の強化

(具体的な取組)

- ✓ 国民・社会を意識したウェブページの充実
  - ⇒ 会長メッセージ動画の掲載等
- ✓ プロフェッショナル人材等の活用
  - ⇒ 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱
- ✓ 若年層への情報発信に向けた検討

## 6. 情報発信機能の強化

### 日本学術会議Webサイトの充実

- 国民に向けた、わかりやすい動画を順次作成・公開
  - 第1弾として会長メッセージ動画を公開(今後の動画についても検討中)
- テーマ別に知りたい情報を見やすくした「特集サイト」を順次作成・公開(予定)

#### 会長メッセージ動画



#### 特集サイト(イメージ)

生成AI

カーボン  
ニュートラル

防災・減災

生成AI

生成AIが社会問題化

公開シンポジウム「生成AIの課題と今後」

提言について情報学委員会にて検討

...

### プロフェッショナル人材等の活用

- 広報・コミュニケーションの専門家・プロフェッショナル人材の更なる活用 等
  - 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱(R4.9~)。広報委員会等の広報に関する検討や広報コンテンツ作成への参画により、広報機能をさらに充実・強化

## 7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(具体的な取組)

✓ 企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓ アクションプランを踏まえた事務局体制の強化

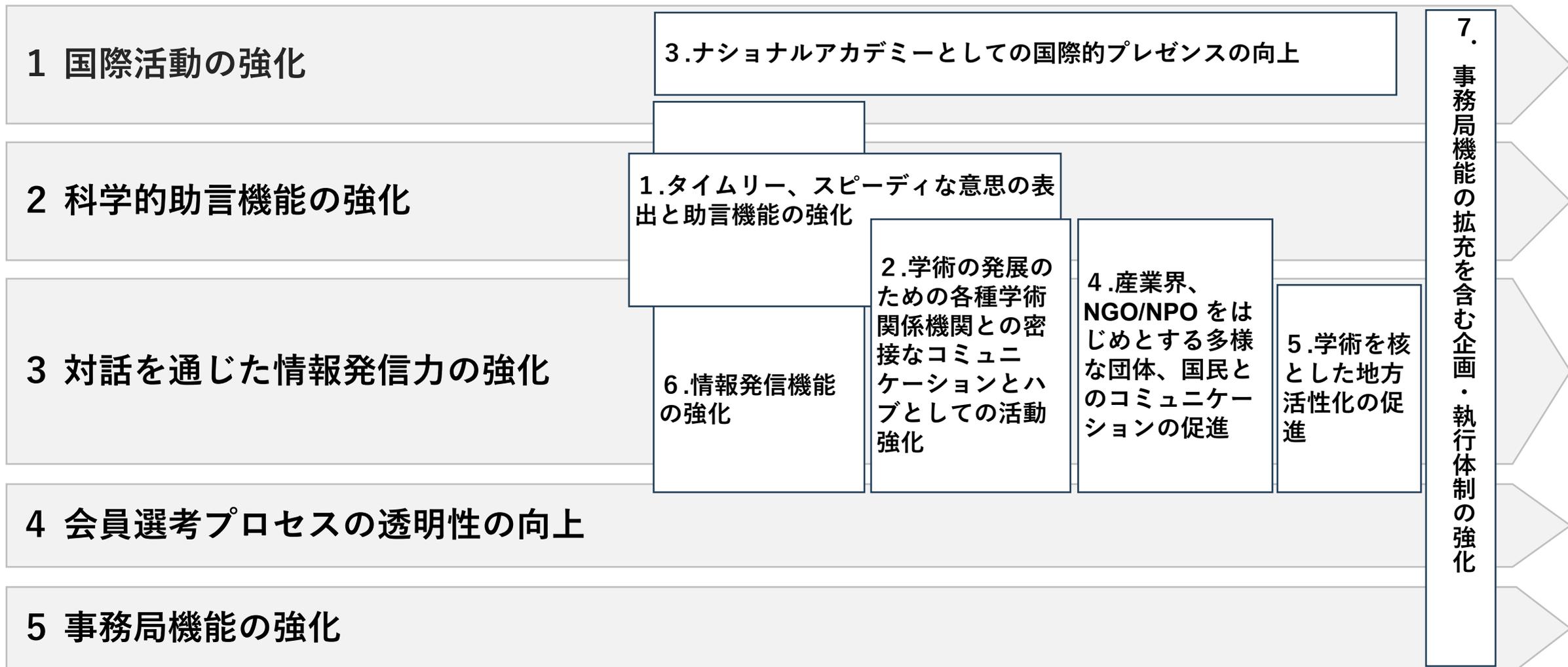
⇒ 会長・副会長のリーダーシップをより発揮するための方策の検討

⇒ 若手専門人材の活用による事務局機能の強化

等

## 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

## 日本学術会議第26期アクションプラン



## 令和6年

- 5月16～17日 世界科学フォーラム2024第3回運営委員会(オンライン)
- 6月 3日 オマーン王立マネジメント・アカデミー会長との会談
- 6月 7日 Gサイエンス学術会議2024共同声明の総理手交
- 7月 1～2日 サイエンス20(S20)2024
- 10月 5～8日 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第21回年次総会
- 10月 6～7日 英国王立協会副会長との会談  
オランダ教育文化科学副大臣との会談  
EU欧州委員会共同研究センター局長、同委員会研究イノベーション機構局長との会談  
アブダビ首長国先端技術研究評議会事務局長との会談
- 10月 7日 国際アドバイザリーボード会合
- 10月 9日 INGSA(政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク)会長との会談

## ＜会長談話＞

- 「宮崎県日向灘を震源とする地震及び南海トラフ地震臨時情報について」(令和6年8月9日)

## ＜会長メッセージ＞

- 「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第12回会合の開催について」(令和6年7月30日)

# 組織運営・科学者間の連携 報告

(2024年4月～2024年10月)

- 1 科学者委員会・同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 財務委員会
- 5 分科会WG

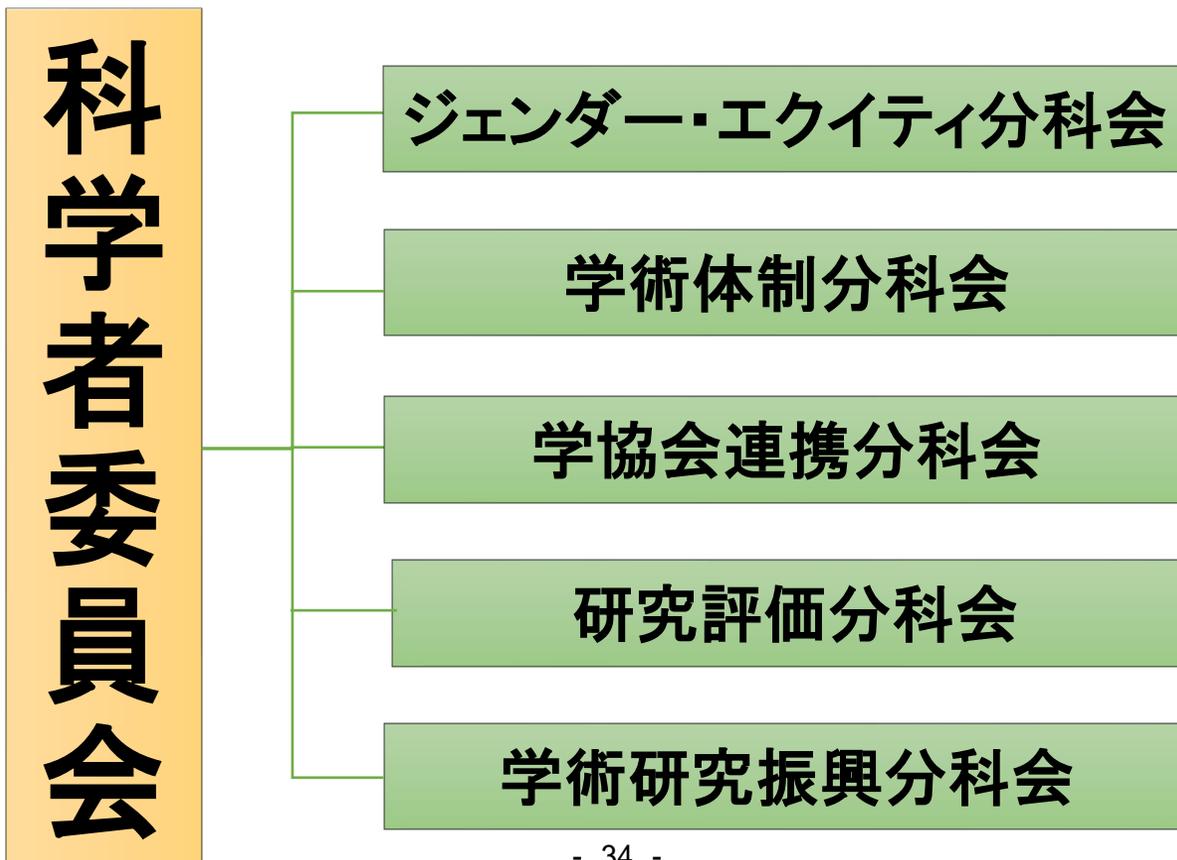
日本学術会議第192回総会(2024年10月21日)

担当副会長 三枝 信子

# 1 科学者委員会・同分科会

科学者委員会（委員長：三枝 信子）

- 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 分科会の課題の調整



# 1 科学者委員会・同分科会

## (1) ジェンダー・エクイティ分科会（委員長：高橋 裕子）

### ● 科学に関する男女共同参画の推進に関する審議

女性活躍促進目標(30%)の達成に向けて

- ・大学・研究機関や学協会の実情の調査を基に、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の25期までの活動を総括

- ・共通課題を整理し、今後の課題を明確化

学術におけるダイバーシティの推進(LGBTI/障害者/外国籍など)の推進

- ・現状を調査・分析し、今後の課題を整理

上記の取組によって得られた知見や改善に向けた課題の周知・普及

- ・今期中に策定が予定されている第6次男女共同参画基本計画に対する有益な提言の発出
  - 令和6年10月10日(木)に公開シンポジウム「ジェンダー・エクイティへの取り組み～ナショナルセンターの役割と将来への期待」を開催。

# 1 科学者委員会・同分科会

## (2) 学術体制分科会（委員長：林 和弘）

### ● 学術の制度・振興等に関する諸問題の審議

➤ 総会② 10月21日(月)午後  
提言について講演予定。

#### 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討

・ 第7期科学技術・イノベーション基本計画(2026年3月までに閣議決定予定)に向けた検討を行い、本年秋を目途に意思の表出を取りまとめ、公表する。

#### その他

・ 学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理  
・ 中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討

# 1 科学者委員会・同分科会

## (3) 学協会連携分科会

- 学協会と日本学術会議の連携推進
- 学協会の機能強化に関する諸課題の審議

### 連携

- ・ 日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

### 規程見直し

- ・ 学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

### ■協力学術研究団体

2,175団体(2024年10月現在)※第26期 43団体承認

# 1 科学者委員会・同分科会

## (4) 研究評価分科会（委員長：尾崎 紀夫）

### ● 研究評価のあり方についての全体的検討

#### 研究評価の あり方

- 関連する過去の提言等のフォローアップ
- 国内外の研究評価のあり方についての調査
- 分野別研究評価のあり方についての検討
- 若手支援としての研究評価のあり方についての検討

# 1 科学者委員会・同分科会

## (5) 学術研究振興分科会(委員長: 森田 一樹)

### ● 重要な学術研究の計画に関する検討に係る審議

#### 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の周知・普及

- ・ 第25期に公表した提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。
  - 令和6年10月4日(金)に学術フォーラム「未来の学術振興構想 一実現に向けて」を開催。

#### 未来の学術振興構想の更新の検討

- ・ 今後20~30年先を見通す学術振興の「19のグランドビジョン」とそれを実現するための「学術の中長期研究戦略」の内容を精査し、必要に応じて更新を検討する。
  - 提言発出後1年のフォローアップと、更なる内容の精査及び必要に応じた更新の検討の参考にするため、日本学術会議協力学術研究団体へアンケート調査を実施。

# 1 科学者委員会・同分科会

## (5) 学術研究振興分科会(委員長: 森田 一樹)

### 学術フォーラム「未来の学術振興構想—実現に向けて—」

- ◆ 開催日時： 令和6年10月4日(金) 13:00~18:00
- ◆ 開催場所： 日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)
- ◆ 開催趣旨： 第25期に発出した提言「未来の学術振興構想(2023年版)」について、提言の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような活動が行われるべきであるか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部の専門家及び外部有識者による議論を行った。

時間	内容	登壇者
13:00 - 13:05	開会挨拶	荒石 隆 (日本学術会議議長、東京理科大学、独立行政法人科学技術振興機構、科学技術振興機構、東京大学名誉教授)
13:05 - 13:15	未来の学術振興構想(2023)について【登壇者定例】	荒石 隆 (同)
13:15 - 13:30	未来の学術振興構想(2023)の目指したもの	山崎 典子 (日本学術会議常務理事、独立行政法人科学技術振興機構、科学技術振興機構、科学技術振興機構)
13:30 - 13:45	人文・社会科学研究分野	藤本 隆史 (日本学術会議第一部長、京都大学大学院文学部教授)
13:45 - 14:05	ネットワーク社会における自律性と多様性の両立	藤本 隆史 (同)
14:05 - 14:15	生命科学の新たな展開と創造	石野 真由美 (日本学術会議常務理事、北海道大学大学院理学部教授)
14:15 - 14:35	理工学・工学研究分野	石野 真由美 (同)
14:35 - 14:45	自然の探求と技術革新による未来社会の構築	田辺 真一 (日本学術会議常務理事、東京大学大学院理学部教授)
14:45 - 15:05	分野横断的で広く学術の未来	藤本 隆史 (同)
15:15 - 15:40	日本の学術の自立と未来の学術振興構想	山口 周 (東京大学名誉教授)
15:40 - 16:05	未来の学術振興構想—研究力の拠出から—	山口 周 (同)
16:05 - 16:15	日本の学術に求められるものからの展開—自律性、多様性、文化—	渡辺 典子 (同)
16:15 - 16:40	学術研究の質とブランド化への取組に向けた議論	中村 直也 (独立行政法人科学技術振興機構常務理事、独立行政法人科学技術振興機構)
16:40 - 17:05	学術と社会のつながりを目指す取組に向けて—学術振興構想とブランド化の両立に向けた議論—	中村 直也 (同)
17:05 - 17:30	未来の学術振興構想を両輪の観点から考える	藤山 隆 (東京大学大学院理学部教授)
17:30 - 17:50	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹 (科学技術振興機構、科学技術振興機構)
17:50 - 17:55	まとめ、閉会挨拶	藤田 一樹 (日本学術会議第二部長、科学技術振興機構)

# 1 科学者委員会・同分科会

## ■開催状況

### 科学者委員会

第5回～第10回

(メール審議)

- ・協力学術研究団体の承認
- ・地区会議主催学術講演会
- ・後援名義の承認
- ・小分科会の設置
- ・連携会員(特任)の追加
- ・公開シンポジウムの開催
- ・提言案の承認

### (1) ジェンダー・エクイティ分科会

◇第2回～第6回 (メール審議)

- ・公開シンポジウムの開催
- ・小分科会の設置

### (2) 学術体制分科会

◇第3回～第5回

- ・提言の内容に関する情報提供
- ・提言の作成に向けて

◇第6回(2024.7.26)

- ・提言の内容に関する情報提供
- ・提言案について

### (3) 学協会連携分科会

◇第1回(2024.6.19)

- ・役員選出、第26期の課題

### (4) 研究評価分科会

◇第2回(メール審議)

- ・連携会員(特任)追加

◇第3回(2024.9.10)

- ・研究評価の意思表出について意見交換

### (5) 学術研究振興分科会

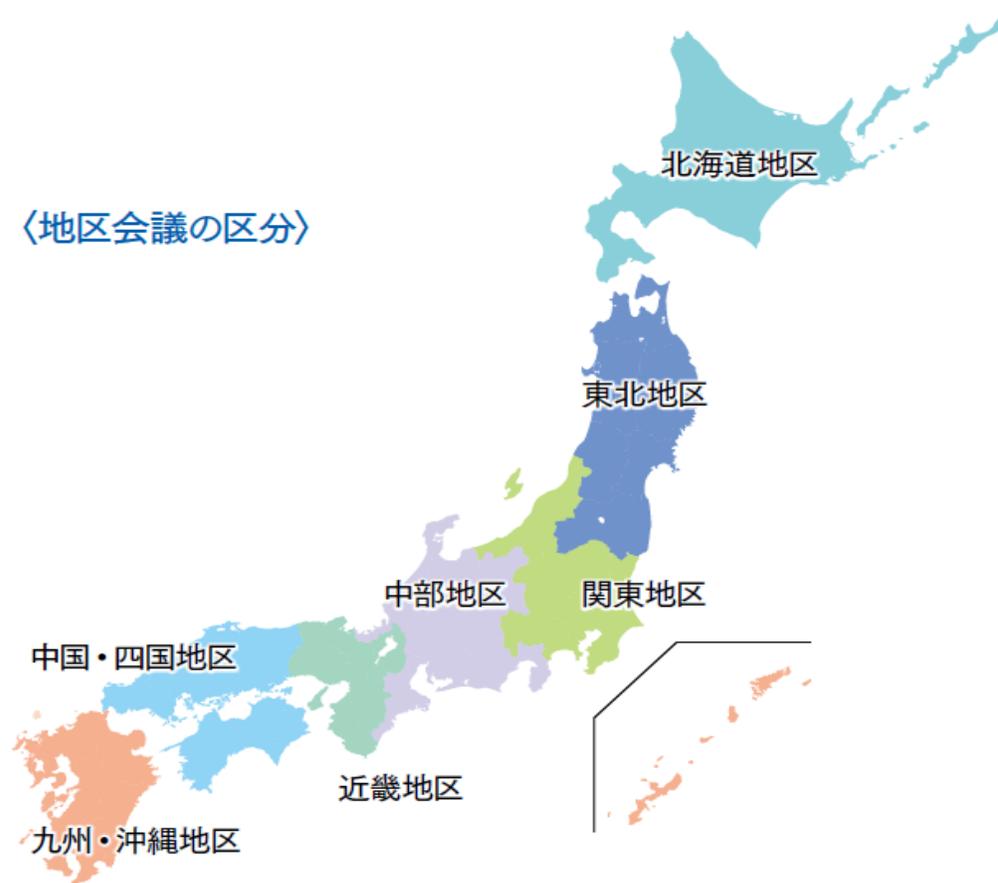
◇第2回(メール審議)

- ・提言「未来の学術振興構想(2023年版)」に関するアンケート調査企画案について

## 2 地区会議

### 地区会議

- 日本学術会議と科学者間の意思疎通
  - 地区の科学者等への日本学術会議の諸活動の周知
  - 日本学術会議に対する意見、要望の汲み上げ
- 地域社会の学術の振興
  - 科学者との懇談会や学術講演会等の開催
  - 地区会議ニュース等の発行
  - 地域社会の学術の振興に資する事業の推進



# 2 地区会議

## ◆ 学術講演会 (2023年11月～2024年10月)

開催日	地区	開催形式	演題	挨拶	参加者	備考
11月18日 (土)	北海道	北海道大学 (ハイブリッド開催)	「人間と野生生物の共生のために～北海道の最新研究と実践～」	三枝副会長	196名	北海道大学と共催
11月25日 (土)	中国 四国	島根大学 (ハイブリッド開催)	「地方大学の (SDGs) 持続可能な開発目標へのアプローチ」	日比谷副会長	58名	島根大学と共催
12月15日 (金)	中部	静岡大学 (ハイブリッド開催)	「微生物がつなぐ文理融合研究～野生酵母クラフトビールと地域振興～」	光石会長	153名	静岡大学と共催
3月18日 (月)	九州 沖縄	長崎大学 (ハイブリッド開催)	「革新的技術の創出によって養殖 (水産業) の未来を作る」	磯副会長	167名	長崎大学と共催
6月14日 (金)	中部	富山大学 (ハイブリッド開催)	「未病からWell-beingを考える」	三枝副会長	131名	富山大学と共催
9月7日 (土)	近畿	京都大学 (ハイブリッド開催)	「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」	磯副会長		京都大学と共催
10月9日 (水)	九州 沖縄	鹿児島大学 (ハイブリッド開催)	「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～」	日比谷副会長		鹿児島大学と共催

## ◆ 地区会議ニュース

(2024年3月発行) 北海道地区 (No54)、東北地区 (No38)、中部地区 (No155)、近畿地区 (No33)、中国・四国地区 (No55)

(2024年5月発行) 九州・沖縄地区 (No122)

(2024年10月発行) 中部地区 (No156)

## 3 地方学術会議

### ● 地方創生に関する取組強化のため、2018年度(平成30年度)から開催

#### 開催状況(第24期～第25期)

- 「日本学術会議 in京都」(2018.12.22)  
共催: 京都産業大学、京都府立大学、京都大学
- 「日本学術会議 in北海道」(2019.2.16)  
共催: 北海道大学
- 「日本学術会議 in富山」(2019.6.28)  
共催: 富山大学
- 「日本学術会議 in山口」(2020.9.27)  
共催: 山口大学
- 「日本学術会議 in福岡」(2022.2.23)  
共催: 九州大学
- 「日本学術会議 in宮城」(2022.11.5)  
共催: 東北大学
- 「日本学術会議 inつくば」(2023.2.15)  
共催: 国立研究開発法人 防災科学技術研究所、  
同 国立環境研究所

### 第26期地方学術会議委員会

#### ● 地方学術会議に関する事項について審議

##### 開催状況

◇ 第1回 (2024.3.28)

役員を選出、地方学術会議の今後の進め方について

## 4 財務委員会

### 財務委員会（委員長：三枝 信子）

#### ●2023年度 決算報告

2023年度の審議等予算にかかる手当や旅費を中心とした日本学術会議全体の執行結果について取りまとめを行い、報告をした。

#### ●2024年度 審議等予算の執行管理

引き続き、各部の予算計画・執行管理は各部に委ねながら、事務局との間においても緊密な連携を図る。また、財務委員会においても予算執行状況を注視し情報の共有を図るとともに、柔軟な予算管理に努める。

#### ●2025年度 審議等予算の配分計画

2025年度の審議等予算について、これまでの執行状況や時勢を踏まえ、総会や部会、各種委員会に対して適切な配分を行う。

## 5 分科会WG

### (1) 分科会WGによる確認状況

- 2024年4月から10月までに計5回の確認作業を実施。第一部4分科会、第二部1分科会、第三部1分科会の計6分科会が設置された。
- 2024年9月末時点で連携会員の約87%がいずれかの委員会や分科会等に参加済である。

### (2) 今後各分科会にお願いしたいこと

- 「意思の表出」の発出を準備する場合、関連する審議事項を持つ他の分科会とも積極的に情報交換を行い、俯瞰的な検討ができるようにしていただきたい。
- 「意思の表出」の発出とそのフォローアップを第26期中に実施できるように、できる限り**早期の準備開始をお願いしたい**。タイムリー、スピーディに「意思の表出」を発出した上で、**フォローアップに十分な時間を**充てていただきたい。

# 日本学術会議総会報告

## 政府、社会及び国民等との関係

### (R6.4～R6.10)

- 1 科学と社会委員会
- 2 課題別委員会
- 3 広報委員会
- 4 科学的助言等対応委員会

令和6年10月21日  
担当副会長 磯 博康

# 1. 科学と社会委員会

(委員長:磯 博康)

国民生活に科学を反映浸透させ、科学に対する理解の増進を図る。

## ■会議開催状況

年次報告検討分科会 第1回(R6. 7.25) 年次報告作成方針等について  
第2回(R6.10. 3) 年次報告書(案)等について

## ■サイエンスカフェの実施状況(R5.10.1～R6.9.30 計6回)

※令和5年10月～令和6年3月に岩手、東京、北海道で計3回実施(第191回総会において報告済)

開催日	テーマ	地域	開催場所
令和6年6月15日	『発酵』をキーワードにした縄文遺跡の新たな魅力探求	青森	Coworking cafe estacion (エスタシオン) ハイブリット開催
令和6年7月27日	虫の大きさでわかる温暖化	滋賀	アル・プラザ彦根6階「COZY TOWN cafe」
令和6年8月7日、8日	せんせいといっしょに自由研究～カガクからのぞく家族と宇宙～	東京	日本学術会議庁舎6階-C会議室 ※「こども霞が関見学デー」のイベントとして開催

## 2. 課題別委員会

社会が抱えるその時々課題のうち特に重要な課題について日本学術会議において審議し、科学者コミュニティを集約した適切な意見を時宜に応じて提言する。

	委員会名	設置時期	委員数	委員会 開催実績
1	防災減災学術連携委員会	令和6年1月25日	22名	3回
2	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	令和6年2月29日	20名	3回
3	循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会	令和6年5月31日	15名	4回
4	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会	令和6年8月30日	18名	1回

## 広報委員会

### ■日本学術会議の広報全般について審議

第1回 (R5. 11. 15) 役員を選任、分科会の設置、学術会議広報の進め方について議論

第2回 (R6. 6. 25) 学術会議広報 (ホームページ、パンフレット、動画、学術の動向) について議論

※国内外情報発信強化分科会と合同開催

### 「学術の動向」編集分科会

### ■「学術の動向」の企画及び編集に関することを審議

### ■日本学術協力財団の編集委員会と協力

第1回 (R5. 12. 21) 役員を選任、『学術の動向』の編集について議論

第2回 (R6. 2. 20) 『学術の動向』の編集について議論

第3回 (R6. 5. 8) 『学術の動向』の編集について議論

第4回 (R6. 8. 16) 『学術の動向』の編集について議論

### 国内外情報発信強化分科会

### ■日本学術会議の活動に係る国内・海外への情報発信に関することを審議

第1回 (R6. 2. 8) 役員を選出、分科会、学術会議広報の進め方について議論

第2回 (R6. 3. 28) 学術会議広報 (ホームページ、年次報告、パンフレット、ニュースメール、SNS、SSH等次世代へのリーチ、学術の動向、地域等との連携) について議論

第3回 (R6. 6. 25) ※広報委員会と合同開催

## 広報活動強化の具体的な取組



### 学術会議ホームページ

トップページの「スライダー」や「What's new」を活用し、総会声明や国際会議の開催、学術フォーラムや公開シンポジウムの開催などを積極的に発信

### 動画・SNSによる情報発信



アクションプランの推進に向けて

第26期会長 光石 衛

ストーリー性のある会長メッセージ動画



こども霞が関見学デーの紹介動画

⇒併せて、学術会議X(旧Twitter)でも発信

### 日本学術会議パンフレット(第26期)



一般向けに学術会議の活動・歴史・組織について親しみやすく説明

QRコードによるHPへの誘導

# 4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

## ■意思の表出の質の確保を図るため、第25期から幹事会の下に設置

### 1. 意思の表出の種類(全8種類)

- ① 政府からの諮問に対する「**答申**」
- ② 関係機関からの審議依頼に対する「**回答**」
- ③ 政府に実現を強く勧める「**勧告**」
- ④ 政府や関係機関等へ実現を望む「**要望**」
- ⑤ 政府や関係機関、広く社会に向けて意見を表明する「**声明**」
- ⑥ 政府や関係機関、広く社会に向けて、総合的・俯瞰的な見地から提案する「**提言**」
- ⑦ 政府や関係機関、広く社会に向けて、専門的な見地からの提案や意見の提示を分科会名等で行う「**見解**」
- ⑧ 審議の結果を分科会名等で発表する「**報告**」

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 2. 「提言」案の査読

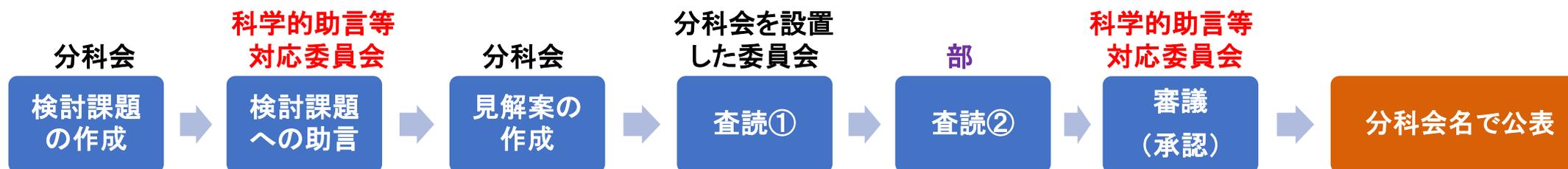


【具体例】 本年秋に「提言」の公表を目指す科学者委員会学術体制分科会の場合



# 4. 科学的助言等対応委員会

## 3. 「見解」案の審議(承認)



## 4. 「報告」案の検討課題への助言



# 4. 科学的助言等対応委員会

## ■任 務

- 部、委員会、分科会又は若手アカデミーから申し出のあった検討課題について助言
- 勧告、答申、要望、声明、提言又は回答の案を査読
- 見解の案を審議、承認
- 部、委員会(分野別委員会を除く)又は若手アカデミーが作成する報告の案を審議、承認
- 勧告、要望、声明、提言又は見解に関する事後的な評価の報告を受ける

## ■会議開催状況

第1回(R6.1.31) 役員の選任、審議の進め方等について

※このほか、懇談会を2回開催

※個別の意思の表出案件の処理は随時実施している。

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 意思の表出の作成に関して、各委員会・部等へのお願い

### 1 意思の表出を行う時期について

今期3年間における意思の表出は、原則、今期末の1年前（令和7年9月末）までを目途に発出できるように努めていただきたい。これに間に合わない場合でも遅くとも今期末の半年前（令和8年3月末）までに発出していただきたい。

今期の最後の1年間は、原則、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てていただきたい。

以上を確実に実行するために、余裕を持ったスケジュール設定、スケジュール管理をお願いしたい。

### 2 各委員会・部等における査読について

意思の表出手続きに関して、各委員会・部等で行う「査読」手続きを迅速に行うために、意思の表出の案文が出来上がってから査読者を決めるのではなく、前もって査読者を決め、査読手続きが査読者の人選等で滞ることがないようにしていただきたい。

# 4. 科学的助言等対応委員会

■ 令和7年9月末までに「**提言**」を公表する場合、スケジュールを**逆算**すると

短縮可能

令和7年9月	幹事会が「 <b>提言案</b> 」を <b>審議</b> （承認後、公表）
7月～9月	科学的助言等対応委員会が「 <b>提言案</b> 」を <b>査読②</b> ※1
5月～7月	分野別委員会が「 <b>提言案</b> 」を <b>査読①</b> ※1
4月中	科学的助言等対応委員会が「 <b>提言の骨子案</b> 」に <b>助言</b> ※2
3月中	分科会は、科学的助言等対応委員会に「 <b>提言の骨子案</b> 」を提出
2月中	科学的助言等対応委員会が「 <b>申出書</b> 」に <b>助言</b> ※2
令和7年1月中	分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「 <b>申出書</b> 」） ※2

※1 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、**査読期間短縮の可能性**

※2 「**申出書**」に「**提言の骨子案**」が添付されている場合はまとめて助言を行うため、**助言期間短縮の可能性**

# 4. 科学的助言等対応委員会

■ 令和7年9月末までに「**見解**」を公表する場合、スケジュールを**逆算**すると

令和7年7月～9月 科学的助言等対応委員会が「見解案」を**審議** ※1（承認後、公表）

5月～7月 部の役員会が「見解案」を**査読②** ※2

3月～5月 分野別委員会が「見解案」を**査読①** ※2

2月中 科学的助言等対応委員会が「**申出書**」に**助言**

**令和7年1月中** 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「**申出書**」）

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、**審議期間短縮の可能性**

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、**査読期間短縮の可能性**

# 4. 科学的助言等対応委員会

■ 令和7年9月末までに「報告」を公表する場合、スケジュールを逆算すると

令和7年7月～9月 部の役員会が「報告案」を審議 ※1（承認後、公表）

5月～7月 分野別委員会が「報告案」を査読 ※2

4月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言

令和7年3月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「申出書」）

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、審議期間短縮の可能性

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、査読期間短縮の可能性

# 日本学術会議 国際活動報告 (2024年4月～2024年10月)



2024年10月21日 第192回総会  
第26期 日本学術会議副会長(国際担当)  
日比谷 潤子



# 第26期の活動方針

## 日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討や日本学術会議の国際戦略を踏まえ、国際活動のさらなる発展を目指す

1. 地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化
  - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、インターアカデミーパートナーシップ(IAP)等加入国際学術団体等に対するより一層の貢献
  - ✓ Gサイエンス学術会議(S7)やサイエンス20(S20)等における各国アカデミーとの連携強化
  - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
  - ✓ 継続的な国際活動の実施の検討
2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
  - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
3. 国内外に向けた情報発信の強化
  - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信



# 国際活動の全体像

## 国際学術団体等への加入・貢献

国際学術会議 (ISC)  
International Science Council

InterAcademy Partnership  
(IAP)

学術領域別・地域別  
国際学術団体

## 役員・代表の派遣

各アカデミー

Gサイエンス  
学術会議(S7)

サイエンス20  
(S20)

連携と交流

主催・共同主催

事務局

アジア学術会議(SCA)  
の運営・開催

Future Earth(FE)国際  
事務局の活動支援

国際会議・シンポジウムの開催



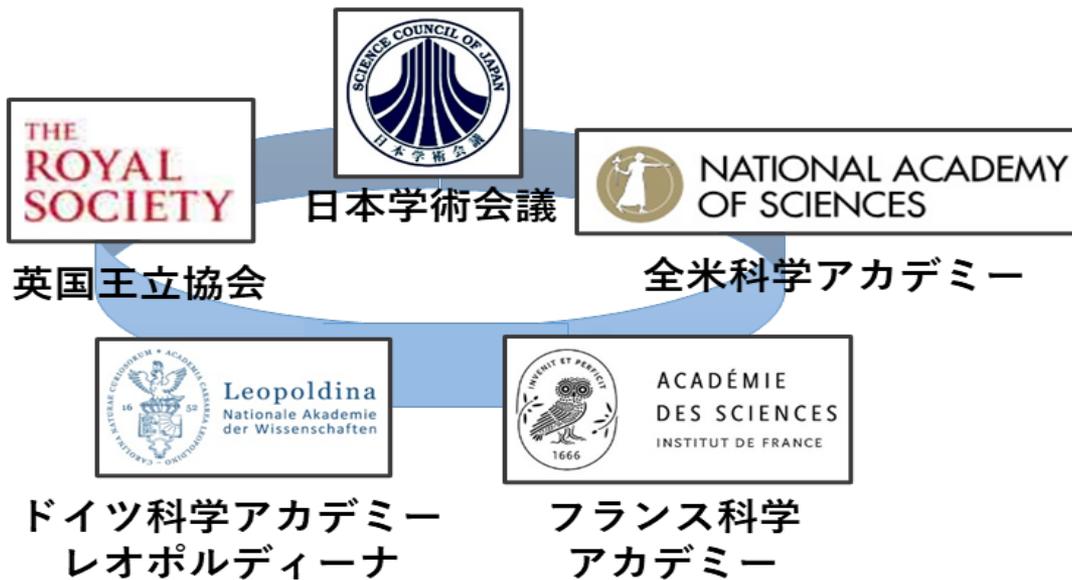
# 報告内容

1. 国際アドバイザーボード
2. 各国アカデミーとの連携・交流
  - ① Gサイエンス学術会議(S7)、②サイエンス20 (S20)、③二国間交流、④アカデミー・プレジデント会議(APM)、⑤世界科学フォーラム(WSF)
3. 加入国際学術団体等への貢献
  - ①代表派遣、②国際学術会議(ISC)、③インターアカデミーパートナーシップ(IAP)
4. 国際会議の共同主催及び後援
5. 国際会議の主催(持続会議)
6. アジア学術会議(SCA)の運営
7. フューチャー・アースの国際的展開
8. 国内外に向けた情報発信



# 1. 国際アドバイザーボード

・主要4か国(英・独・仏・米)のナショナルアカデミーと、  
連携強化の方策及び日学のアクションプラン等について議論。



## <開催概要>

日時 : 2024年10月7日(月) 15:00-16:30  
場所 : 京都国際会館  
参加者 : 光石会長、日比谷副会長、磯副会長  
英 副会長、仏 前会長  
※独及び米国は欠席



会議風景  
(京都国際会館にて撮影)

## 2. 各国アカデミーとの連携・交流①

### ● Gサイエンス学術会議2024(Science7 (S7))

G7サミット参加各国アカデミーがG7サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表

➤ 4月11日及び12日、イタリア・リンチェイ国立科学アカデミー主催のもと、ローマにおいてGサイエンス学術会議2024が開催され、光石会長が参加。会議において6つのテーマに関するパネルディスカッションが行われ、共同声明をイタリア政府へ手交。

- 安心・安全な農業生産
- 人工知能と社会
- 健康問題に関する政策提言
- 核兵器管理
- 社会的格差と貧困
- 文化遺産の科学とコミュニケーション

➤ 6月7日には、光石会長と日比谷副会長が岸田総理(当時)を表敬し、共同声明を手交。



各国アカデミー代表  
(イタリア・リンチェイ国立科学アカデミー施設にて撮影)



岸田総理(当時)への共同声明の手交  
(首相官邸にて撮影)

## 2. 各国アカデミーとの連携・交流②

### ● サイエンス20(S20) 2024

- ✓ ブラジル科学アカデミー主催のもと、2024年7月1日、2日にブラジルのリオデジャネイロにおいて開催。
- ✓ 全体テーマは、「Science for Global Transformation (地球規模の変革に向けた科学)」。
- ✓ 共同声明は、本年11月18日、19日にブラジルにおいて開催されるG20首脳会合に向けて、G20政府関係者に報告。



写真提供: Marcos André Pinto/ABC

## ✓ S20サブテーマ及び文書の取りまとめに参加した専門家

### ①人工知能:倫理、社会的影響、規制及び知識共有

乾 健太郎 (Mohamed bin Zayed University of Artificial Intelligence, Visiting Professor、東北大学大学院情報科学研究科・教授、理化学研究所革新知能統合研究センター・チームリーダー)

### ②バイオエコノミー:持続可能な地球に向けた世界の形成

藤井 一至 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員)

### ③エネルギー移行プロセス:再生可能エネルギー、社会及び経済への配慮

下田 吉之 (大阪大学大学院工学研究科教授)

### ④健康関連の課題:医療の質、公平性、アクセス及び感染症と気候変動に対する備え

坂元 晴香 (聖路加国際大学公衆衛生学研究科客員准教授)

### ⑤社会正義:包摂性の促進、貧困の撲滅及び不平等の解消

標葉 隆馬 (大阪大学社会技術共創研究センター准教授)



## 2. 各国アカデミーとの連携・交流③

### • 二国間交流

✓ 会談の実施

2024年6月 オマーン王立マネジメント・アカデミー会長

2024年10月 STSフォーラムにあわせて来日したアカデミー等

英国 王立協会副会長、

欧州委員会 共同研究センター局長、

研究イノベーション機構局長

オランダ 王立芸術科学アカデミー副会長、

アブダビ首長国先端技術研究評議会事務局長

INGSA(政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク)会長

このほか、Gサイエンス学術会議、S20(前掲)に際して各国アカデミーと意見交換を実施。



## 2. 各国アカデミーとの連携・交流④

- 第17回 アカデミー・プレジデント会議  
(Academy of Science Presidents' Meeting: APM)
  - STSフォーラム（科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム）第21回年次総会の分野別会合として、日本学術会議が主催。
  - 光石会長は、英国王立協会のマーク・ウォルポート副会長と共同議長を務め、「不確実性の時代における科学の役割（The role of science in the era of uncertainty）」のテーマのもと、活発な意見交換を実施。

### <開催概要>

日時 : 2024年10月7日（月）12:50-14:10  
場所 : 京都国際会館  
日学出席者 : 光石会長、日比谷副会長  
参加機関等 : 11の国・地域等のアカデミー



APMに参加した各アカデミーの代表等  
(京都国際会館にて撮影)



## 2. 各国アカデミーとの連携・交流⑤

- 世界科学フォーラム (World Science Forum: WSF)
  - ✓ 2003年から隔年で開催されている会合にて、科学者をはじめ政策決定者や民間部門の代表者を集め、科学の役割と貢献についての議論や政策提言を発信。
  - ✓ 2024年11月にはWSF2024がハンガリー・ブダペストで開催予定。日本学術会議からは副会長(国際活動担当)が委員としてWSF運営委員会に参加し、プログラム案の審議に参加。プレナリーセッションには、梶田隆章連携会員(前会長)や小池俊雄元第三部会員ほか現地で参加予定。



### 3. 加入国際学術団体等への貢献①

- 代表派遣

- ✓ 日本学術会議が加入する42の国際学術団体等に対し代表者を派遣
- ✓ 国際学術団体における国際基準・ルール策定などの議論に参画することで、日本の学術のプレゼンスの向上に貢献
- ✓ **代表派遣実施状況(2024年度)**
  - ・2024年9月時点で、30会議31名の派遣を決定
  - ・このうち、17会議に17名を派遣



# 3. 加入国際学術団体等への貢献②

## • 国際学術会議(ISC)

### ✓ 組織運営への貢献

副会長：小谷元子連携会員、白波瀬佐和子第一部会員（任期：2021年～2026年）

常設委員会「科学の自由と責任に関する委員会」委員：隠岐さや香連携会員（任期：2022年  
～ 2025年）

太陽地球系物理学科学委員会会長：塩川和夫連携会員（任期：2023年～2027年）

アジア・太平洋拠点アドバイザリーボード委員：氷見山幸夫連携会員（特任）（任期：2023年  
～ 2026年）

災害リスク統合研究科学委員会委員：寶馨連携会員（任期：2024年～2027年）

### ✓ ジョイント・イベントの開催

11月25日に日学にてISC理事のポールトン博士等を招いて「現代の科学～公共財としての科学とオープンサイエンスによる変革の可能性」に関する特別講演を開催予定。

### ✓ ISC総会（2025年1月26日～30日。於：オマーン）への参加



### 3. 加入国際学術団体等への貢献③

- IAP(InterAcademy Partnership)
  - ✓ 日本学術会議は、声明作成のためのワーキンググループへ専門家を派遣する等、適宜協力
  - ✓ コミュニケーション・教育・アウトリーチに関する委員会には日比谷副会長が参加(任期:2022年～2024年)
  - ✓ IAP共同声明「人間の安全保障」について、石田淳連携会員が執筆協力(2023年9月～)。ISC等分科会、政治学委員会が声明案の査読に協力し、日本学術会議も賛同(2024年4月)。



# 4. 国際会議の共同主催及び後援

## ● 共同主催国際会議の運営

- ✓ 令和6年度共同主催国際会議として6件の会議を開催（令和6年度までの開催実績は357件）。
- ✓ 日本学術会議からは副会長が各会議へ出席し、主催者挨拶。
- ✓ 「第27回国際昆虫学会議」（令和6年8月）では、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席及び皇嗣殿下からのおことばを賜った。



「第27回国際昆虫学会議」開会式

## ● 国際学術会議の後援

- ✓ 下記4件の国際会議の後援を決定
  - ・「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第21回年次総会
  - ・2025 VICサミットと授賞式
  - ・第16回有機エレクトロニクスに関するアジア会議
  - ・第2回世界マリンステーション会議

## 5. 国際会議の主催

- 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」(持続会議)

- ✓ 日本学術会議では、2003年以降、持続可能な社会のための科学と技術に関する課題を議論するため、国際会議を毎年開催。
- ✓ 2024年度は、2025年2月3日に開催予定(ハイブリッド開催)。  
「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040年の科学・学術と社会を見据えて～」をテーマとして、若手アカデミーのメンバーを中心に企画。  
※持続会議初の試みとして、子連れ参加／託児所設置を予定。



# 6. アジア学術会議(SCA)の運営



## ● 第23回 アジア学術会議(バンングラデシュ会合)

- 日本学術会議が事務局(事務局長: 澁澤栄連携会員)を務め、18カ国・地域の31機関が加盟。毎年、持ち回りで年次会合を開催。
- 2024年11月30日～12月2日、バンングラデシュ科学アカデミー(BAS)の主催により、第23回会合をダッカで開催予定(ハイブリッド形式)。テーマは、「第4次産業革命と未来の社会(4IR and Future Society)」。

日本学術会議からの 登壇予定者	職名
臼井 恵美子 (第一部会員)	一橋大学経済研究所教授
光石 衛 (会長・第三部会員)	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授
大倉 典子 (連携会員)	中央大学研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授
澁澤 栄 (連携会員)	東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授
門田 有希 (連携会員)	岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授



# 7. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、2021年9月に発足した国際事務局(9か国・地域にて構成)ハブの一つである日本ハブの主要支持機関として機能

- ✓ 2024年6月にヘルシンキで開催された第4回フューチャー・アース総会へ、春日文子連携会員、高村ゆかり連携会員(特任)、谷口真人連携会員及び渡辺知保連携会員を代表派遣。



「第4回フューチャー・アース総会」

- ✓ 同総会へ3名の外国人研究者を招聘。
- ✓ フューチャー・アースの評議会(Governing Council(GC))にHub/Funderグループの代表として高村ゆかり連携会員(特任)が、National Committeeのグループ代表として沖大幹第三部部長が参画。

## 8. 国内外に向けた情報発信

- ✓ 国際活動の成果の発信（HP及びX（旧Twitter）、ニュースメール）
  - ・Gサイエンス学術会議2024共同声明の岸田総理（当時）への手交（2024年6月）
  - ・サイエンス20（S20）2024共同声明（2024年8月）
  - ・国際アドバイザーボード及びアカデミー・プレジデント会議（APM）（2024年10月） ほか

この他、国際学術団体や各国アカデミー等が有する広報ツールを利活用

